

物語の内ようを読み取る

名前	組 番		月 日	正答数
				4

ねらい

●場面の様子や登場人物の様子を思いえがく。

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えましょう。

「ホミと、ホミのうちでかっているヤギのユリは、大のなかよしでした。ユリにはジロウという子どもがいました。

だれかによばれたような気がして、ホミがこやに行ってみると、ユリ^①のようすがおかしい。

くびをなげだして、べったりとねているのです。

「ユリ、どうしたの。水をのむと、げんきが出るんだよ。」

急いで水をくんでいって、あたまをもちあげたけれど、口もあけない。

「どうさん、かあさん、ちょっと来て。」

ホミは、なきながら走りまわりました。

みんなで、つのつけねをマッサージしたけれど、ユリはよわっていくばかりです。

「ユリ、どうしたの。うん。」^②

ホミのおおを見るけれど、何も言ってくれません。

ジロウが、たおれているユリのおっぱいをのもうとして、さわぎます。

「かあさん、どうかしてよ。」

そこへ、どうさんが牛のいしやさんをつれて、もどってきました。

でも、じゅういさんも、どうすることもできません。

「何か悪いものを食べたのかなあ。それにしても、こんなに急によわるものかなあ。」

くびをかしげながら、かえっていききました。

「はらぺこだ。ごはんを食べてからにしよう。」

どうさん、かあさんが引きあげます。

ホミは、しきわらの上にすわって、ユリのあたまをひぎにのせたままでした。

おしりがぬれても、そのままでした。

こやのうらで、カエルがなっています。

とおくで、犬がほえています。

「ユリ、がんばれ、ユリ、がんばれ。」^③

ホミは、カエルにまけないように声を出しました。

ユリは苦しそうないきをつくけど、目はいつものやさしい目のままでした。

(加藤多一^{かとうたいち}「やぎさんへてがみ」より)

◆読み取りのポイント①◆

①たいせい

だれがどうしたできごとが書かれているか、あらすじをとらえましょう。

登場人物

ホミ(女の子)

ユリ(ヤギ)

ジロウ(ユリの子ども)

とうさん

かあさん

じゅういさん

できごと

ユリの具合が悪くなった。

← じゅういさんも、どうすることもできない。

← ホミは、苦しそうなユリを上げました。

- (1) ユリのようなすがおかしいとありますが、ユリはどんな様子でしたか。次の□

① にあてはまる言葉を、文章中からぬきだしましょう。

①

をなげだして、

とねている。

- ② 水をくんできてのませようと、

をもちあげたけれど、

あけない。

- (2) 「ユリ、どうしたの。うん。」とホミは言いましたが、ユリのどんな様子を見て、

ホミはこう言ったのでしょうか。次の□にあてはまる言葉を、文章中からぬきだしましょう。

みんなで、つののつけねをマッサージしても、ユリは

いくばかりだった。

◆読み取りのポイント②◆

②たいせい

ホミの様子を思いえがきましょう。

・ ユリがおかしいのに気づいて、とうさんとかあさんをよびに行ったとき

↓ なきながら走った。

・ とうさんとかあさんが引きあげたあと

↓ しきわらの上にすわって、ユリのあたまをひぎにのせていた。

「ユリ、がんばれ、ユリ、がんばれ。」と声を出した。

- (3) 「ユリ、がんばれ、ユリ、がんばれ。」とありますが、ホミは、どんなふうに言

いましたか。次から一つえらびましょう。

- 1 ユリに聞こえないように、小さな声で言った。
2 カエルの声にまけないような声で、ユリを上げますように言った。
3 とうさんやかあさんに聞こえるように、せいっぱいの大声でさげんだ。
4 さわいでいるジロウに注意するように言った。

〔 〕

物語の内ようを読み取る



(1) ① くび・べったり

② あたま・口

(2) よわって

2

(1) すぐあとに「くびをなげだして、

べったりとねているのです。」とあります。この様子を見て「ユリのようすがおかしい。」と、ホミは思ったのです。

(3) カエルのなき声と、犬のほえる声が聞こえています。そういう声にまけないような声でホミはユリをはげましたのです。